

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4392500049		
法人名	有限会社ひまわり		
事業所名	認知症グループホームひまわり		
所在地	熊本県熊本市北区植木町山本886-1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市南区八幡9-6-51
訪問調査日	平成28年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様のいままでの人生で培った価値観・人生観を尊重する介護を目指しています。今までの生活習慣を大切に、入居された方が安心して自分らしい生活が出来るように本人や家族からの情報を元に様々な活動に取り組んでいます。利用者様の人生の中で喜び、楽しみのある機会を多く作れるような支援に努めています。また、地元の人々とのつながりを大切に、地域のイベントなどに積極的に参加し地域との交流を深めています。平成27年度より「小さな家づくり」を基本理念として、日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

共用空間全体が吹き抜けで天井も高く広がりある空間に、木そのままの梁が独特の雰囲気を醸し出しています。その空間は明るくとてもゆったりとした時間が流れ、利用者の皆様が楽しそうに過ごされていました。事業所は、平成27年度に新たにスタッフ全員で意見を出し合いKJ法を用いて、新たに理念を作り上げています。それによりより現場に即した理念のもと、日々介護に取り組まれています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と協議して新たに策定した法人の理念を玄関に掲示し、毎月の業務会議や施設内研修にて復唱し、理念の共有に取り組んでいる。	大きく3本の柱で構成される法人の理念と今年度新しく全スタッフで話し合っ作ったグループホーム独自の理念のもと、毎月の業務会議や施設内研修にて復唱し、全職員で共有している。全スタッフで考えたこともあり、理念に対する思いも強いものになっていると思える。評価当日もスタッフの方に聞くと、スラスラと言うことが出来ることから、この理念も浸透していることが窺えた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、幼稚園との交流や職場体験などを受け入れ、地域の一員としての役割を果たすことが出来るように取り組んでいる。	山本地区のどんどこやや植木町のはってん祭、その他熊本市の植木市や菊池市の花まつりなど、近隣で行われる行事に利用者と一緒に出向いている。また、月一回の幼稚園との交流でも慰問であったり出向いたりしたり、職場体験でも毎回2~3名の中学生を受け入れている。	事業所の行事への地域の方の参加や、地区の清掃活動などへの参加は、まだ出来ていないとのことですが、検討中ということですので、ぜひとも実現して頂きたいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族に対して認知症への理解や、介助方法などの相談やアドバイスをやっている。認知症サポーター講座や介護者家族会などの情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回運営推進会議を開催している。地域包括支援センター、民生委員、社会福祉協議会、家族代表の方に参加して頂き、活動報告や外部評価結果などの報告を行い、参加者の意見を活用し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	奇数月の最終火曜日に行われている運営推進会議には、地域包括支援センター職員、民生委員、社会福祉協議会、家族代表の方が出席している。法人の3事業所合同で行われ、利用状況や利用者の状況等についても報告し、意見や助言をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の留意点やサービス提供などについて、市の担当者へ連絡を取り、指導を仰いでいる。	熊本市であるが故、市担当者の運営推進会議への出席はない。毎月1回、熊本市の介護支援相談員の受け入れを行い、利用者の声に耳を傾けている。また、運営上分からない点や判断に迷うことがあれば、その都度連絡を取り指導を仰いでいる。状況により積極的に区役所まで出向いて直接相談を受け、協力関係を築くようにしている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて、施設の方針や身体拘束の悪影響や行政への報告書作成義務等について職員の周知を行い、実施できるように指導を行っている。身体拘束排除宣言を掲示している。日中は玄関は施錠はせず、思いの傾聴や気分転換の活動を行っている。	毎月の施設内研修で、年1回を高年齢者虐待防止・身体拘束排除のテーマで行い、また毎月の業務会議でも状況に応じて身体拘束についての話を行っている。「身体拘束排除宣言」を廊下の見やすい位置に掲示し、常に意識できるようにしている。スタッフ間でも、身体拘束等とはいかないがわずかに気になるような声掛けなどの対応があると、気軽に注意しあえているということであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者が熊本県権利擁護推進員であり、人権・自己決定の取り扱い等について各ケースごとにOJTを行っている。権利擁護の制度について情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は利用者と家族との最初の共同作業であると考え、必要書類について十分に説明を行い、家族などからの質問にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において家族代表者に施設の運営と改善点や要望についての意見を頂いている。面会時にも家族の意見を聞く機会を作っている。	事業所では、毎月1回介護相談専門員による利用者からの意見の聞き取りを行っている。また、運営推進会議に出席の家族代表からも感想やケアに対する意見・要望を頂いている。家族の面会も多く、状況に応じ別部屋で話したり、出来るだけ意見の言い易い環境作りに取り組んでいる。	家族からのアンケート調査については、概ね良好だったと思います。これからも満足することなく、意見や要望また苦情等の言い易い環境づくりに取り組んで欲しいと思います。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務会議を行い、職員からの意見、提案を聞く機会を設けている。必要時には、個別面談の機会を作っている。	毎月の業務会議でのスタッフからの発言の他、ミーティングでも話し合っている。スタッフとしてはとても言い易い環境とのことで、最近ではレクリエーションや外出支援などの企画、またペーパータオル式の温かいおしぼり機導入についても実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況に応じて、勤務時間の調整など働きやすい職場作りに努めている。また、個別目標シートや個別評価を実施し、適切な評価を行いやりがいのある職場環境の整備に努めている。		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が自らの研修計画を策定し、自己研鑽を図る取り組みを行っている。施設内研修は全体計画に基づいて実施している。職員に外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加出来るよう取り組んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>外部研修や介護福祉士・認知症ケア専門士等の職能団体の研修や会合に出席し、他の事業所の方と情報交換を行い、参考点は積極的に取り入れている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時や家族からの情報を元に、声かけ、傾聴し、他の利用者や職員と安心して共同生活を送ることができる様に支援している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に、家族の不安や要望等の思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントを十分に行い、様々な職種の職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行える様に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>掃除や調理や洗濯などの家事活動を、職員と一緒にを行い、共に生活し、支え合うもの同士の関係作りに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が面会に来られた際は、施設での生活状況や、本人の困りごとを報告・相談し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に自宅訪問や馴染みのある場所へ訪問し、これまでの暮らしてきた地域での関係性の継続に努めている。	病院受診支援の際に自宅訪問し、庭の花を見たり家族と触れ合う時間を作ったり、定期的に馴染みのお寺へ通ったり、ドライブが好きだった方をドライブへ出かけたりしている。近所の方や親せき・友人などが気軽に面会に来られることもある。写経や生け花、裁縫などの昔からの趣味をお持ちの方へは安全面に配慮しながら行える場を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、職員が橋渡し役を行っている。また、利用者同士で笑顔で声をかけられる関係づくりに努めている。レクリエーションではお互いの顔が見えるように、配置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる相談窓口となれる様に努めている。相談に対して活用できるサービスの内容について、提案を行う等の支援を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話の中から、本人の思いや意向を聞いて、スタッフで話し合い、本人の思いに添った生活の実現に努めている。	思いや考えを言葉で伝えることが出来ない利用者は現在は4名程おられ、特にそのような方への思いや意向の把握としては、本人の表情や行動などの傾向をカルテに記録し、日常スタッフで集まった時や業務会議で話し合い、対応を考えている。熊本市派遣の介護相談専門員も受け入れて利用者の思いも聞いている。スタッフからは、利用者の意味不明な言動なども必ず意味があるので、真剣に聞きながらその意味を深く想像ながら対応するようにしていると話が聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から思いを語る機会を作り、これまでの暮らしぶりの情報の把握に努めている。センター方式も活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握に努めている。定期的にアセスメントを行い、本人のできることや困りごとや生活への思いについての現状把握に努めている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネジャーと担当介護士を中心にケアプランの作成を行っている。ケアの内容については、多職種での情報交換と検討を行い様々な意見を取り入れたケアプランを目指して作成している。</p>	<p>家族への情報収集と打合せをケアマネジャーや担当介護士で行い、内部の栄養課の調理スタッフの意見や、外部では主治医や看護師、また福祉用具業者の意見も介護計画に反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録から介護計画の見直しを行っている。又、申し送りノートの活用、業務ミーティングでのケアカンファレンスなどにより、職員の気づきの共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応える支援ができるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>職場体験や保育園、小中高の学生との交流などを行い、地域の人々との繋がりを大切にしている。温かい環境の中で安心して過ごして頂けるように支援している。地域のまちづくりワークショップにも参加し、社会資源の活用に取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。又、主治医への状態報告や指示受けを確実にを行い、医療機関との関係づくりに努めている。</p>	<p>基本的には本人・家族が希望するかかりつけ医を受診としているが、協力医であれば緊急時や夜間の対応・往診等の観点からほとんどのご利用者が協力医をかかりつけ医としている。また、受診時の支援も基本的には家族の対応となるが、協力医の場合であれば、事業所から受診支援を行っている点も協力医がかかりつけ医となる要因の一つでもある。認知症の専門医については、現在は3名程が受診している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の健康管理について介護職と看護職の連携に努め、看護職員が必要な助言や指示を行っている。夜間は看護職員がオンコールにて緊急時対応と健康管理について相談、助言を行っている。</p>		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や外来・病棟師長との情報交換を積極的に行い、利用者についての適切な処遇について話し合う機会を持つようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について、施設として出来ることと出来ないことの範囲について家族に説明している。その範囲の中で、地域の協力医や訪問看護等と連携しながら出来る限りの対応を行っている。	看取り支援については、今までに実績が1例あるが、それは特殊なケースで病院との連携やご家族の協力、事業所内での状況など様々な好条件が整った結果である。基本的には積極的には行わない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。施設内研修にて緊急時対応についても学ぶ機会を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施し、通報設備等を使用して夜間想定訓練を行っている。地域の消防団とも交流する機会を作り、協力体制を依頼している。	年に2回、そのうち1回を消防署立ち合いの夜間想定にて消防避難訓練を実施している。現在、地域の消防団に訓練時や災害時の協力を得られるように依頼している最中である。非常時の備えについては、飲料水、インスタント麺、レトルト食品などを3日分程ローリングストック法で行っている。	メディアで良く見る防災アドバイザーは、実際の災害を前にすると訓練以上の力を発揮することは出来ないと言っています。よって訓練に取り組む姿勢の再確認をお願いします。また、地元消防団の協力体制が早く実現するように願っております。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシーを提示し、周知に努めている。施設内研修にて接遇や個人情報保護について学ぶ機会を作っている。毎月の業務会議でも職員に再確認を行っている。	プライバシーポリシーを提示し、周知している。利用者への接し方の勉強として接遇にテーマを絞った内部研修を年に1回行ったり、毎月の業務会議内でもスタッフで話し合い、再確認の場を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示を待つケアに努めている。利用者によっては選択しやすいように、2択にして自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決めず、出来るだけ入居者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援している。		

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、誕生会や外出時には化粧を手伝ったり、綺麗な洋服を着てもらったりしている。また、日常的にお化粧を楽しんで頂けるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものや旬の食材を献立に取り入れたり、食材の下ごしらえ、盛り付けなど、出来る方には、積極的にして頂いている。	基本、外注先から食材を仕入れているが、ご近所の方から旬の食材を頂く事もあり、料理に取り入れている。その他にも日常の会話や昔から好きな物を取り入れたり、七夕時にそうめんや秋にはさんまを外で炭火で焼いたり、冬の鍋やおでん、ホットプレートで利用者と一緒を作ったりと食事が楽しみなものになる様取り組んでいる。当日と一緒に食事させて頂きましたが、味や量なども丁度良く、皆さん美味しそうに食事されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、記録に残し、必要な栄養・水分の確保が出来る様に支援している。特に水分摂取量の管理が必要な利用者に対しては細かく摂取量の確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。支援が必要な方には、一部介助にて仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう、トイレ誘導や声かけを行うなどしている。	排泄チェック表を使い時間による誘導の他、なんとなく動くやそわそわする等の固有のアクションを見逃さないようにしながら、周りに気を使いながらこっそり誘導し、出来るだけトイレでの排泄を支援している。また、他のグループホームではあまり見かけない各居室にあるトイレにはちょっと驚かされましたが、今までほとんど問題は起こっておらず、先進的な考えであると感じました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や乳製品の飲み物をお出しし、食物繊維の多い芋の料理をおやつに多めに取り入れている。体調に合わせて適度な運動を一日の活動の中に取り入れるよう心がけている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には、入浴日を決めているが、本人の体調や希望によって、曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。</p>	<p>週に3回、2～3名ずつ入浴の支援を行っている。入浴の際は一人一人ずつの個浴で、お湯も毎回入れ替えている。拒否のあられる方の場合、朝から入浴の話をしたり色々な作業の後に「ちょっといいですか～」などと会話をしながら誘導したり、誘う機会を増やしたり等して対応している。寒い今の時期は、早めにシャワーなどで浴室を十分に温めたのち寒くない様に気をつけている。入浴剤は使用していないが、しょうぶ湯やゆず湯など季節感を感じれる入浴支援も行っている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作ることを心がけ、夜間の安眠につなげている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>カルテに薬剤情報提供書をファイルし、その都度目的や副作用を確認できるように努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その方の生活歴や職歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動や趣味活動を心身の状態に合わせて一日の活動に取り入れている。書道や節分などの伝統行事を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>花見などの季節行事などに出かけている。天気が良い時は、施設周辺に散歩に出かけている。その人にとってなじみのある地域の商店への外出支援を行っている。</p>	<p>桜やしょうぶ、バラ、ハスの花など季節に応じた外出の行事を行っている。行事以外でも、暖かい時にはテラスにイスを置いて日向ぼっこやお茶会などを行ったり、表情を見て外出したような利用者には2～3名ずつで散歩の外出支援も気軽に行っている。その他にも日用品やおやつなどの買い物やドライブしたりと臨機応変に外出支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理が可能な利用者については、決まった金額を自己所有とし、買い物の際も自立支援を行っている。管理が困難な利用者については職員管理とするが、買い物の際等には、本人の理解と同意を得る働きかけを心がけている。</p>		

51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時には必要に応じて電話が出来るような支援をしている。手紙などの代読や代筆なども行い本人・家族・友人などとのやりとりの支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木の温もりを感じる事ができるような空間設計をしている。季節の花を利用者に活けて頂いて、飾っている。好きな音楽を流し、くつろげる空間作りに努めている。又、気温に応じ、随時施設内の温度・湿度調整を行っている。</p>	<p>共用空間は全体的に吹き抜けになっており、広さを感じれる空間であり、木の温かさと相まってとても落ち着ける空間となっている。花見の時期には季節を感じれる製作物や生花を飾ったり、また童謡や演歌などの音楽、時代劇やお笑い番組などの利用者の方が好きな番組を流したりと、映画館みたいな雰囲気づくりにもこだわっている。次亜塩素酸ナトリウムで朝に手すりなどを拭いたり、埋め込み式のナノイーの空気清浄機や加湿器を設置し、キレイな環境づくりに取り組んでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の関係性を考慮して、テーブルの席を配置している。活動の時も、親しいグループで楽しむことができる環境作りを行っている。利用者によっては、場所を移動して一人で落ち着いて過ごす時間ができるように支援している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、安全に過ごせる様、家具の配置を考えたりしている。</p>	<p>居室の設備としては、ベッド、クローゼット、トイレとなっており、今までの生活で使い慣れた物としては、仏壇や座イス、タンス、家族やお孫さんの写真などを居室に飾っている。また、利用者の日常の動きなどを考えて、居室内の配置にはこだわっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>洗濯物干し、たたみ、や食事の準備等の家事は、出来る方には積極的に頂く様、声かけしている。バリアフリーとし、家具の配置を工夫するなどして安全に過ごせる環境づくりを行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 認知症グループホームひまわり
作成日 平成28年3月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所自体が地域の一員として日常的な交流を十分に行う事が出来ていない	地域との交流を日常的に行い、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる環境を作る。	地区の季節の行事ごとに利用者と一緒に参加する。また、準備や片付けなども出来る事は積極的に手伝う。	12か月
2	10	利用者や家族等が意見や要望、または苦情などを職員に言える機会を今後も作っていく必要がある。	今後も利用者や家族から意見や要望を言いやすい環境づくりに取り組む。	家族の面会時や家族へ電話連絡をする場合は、意見や要望などがないかこちらから積極的に尋ね、家族から意見が出せる機会を更に多く作っていく。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。